

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
			評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質							4.2		
Q1 室内環境				0.40			4.0		
1 音環境			3.7	0.15	-	-	3.7		
1.1 騒音			4.0	0.40	-	-			
1.1.1 暗騒音レベル			NC値35-38	4.0	1.00	3.0	-		
1.1.2 設備騒音対策				-	-	-			
1.2 遮音			3.9	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能			九条通に面した居室の開口部の遮音性能はT-2。音楽室はT-3	4.0	0.30	3.0	-		
1.2.2 界壁遮音性能			RC壁 Dr-45以上	5.0	0.30	3.0	-		
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-		
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境			4.0	0.35	-	-	4.0		
2.1 室温制御			5.0	0.50	-	-			
2.1.1 室温設定			冬季も夏季も24度設定可能	5.0	0.60	3.0	-		
2.1.2 負荷変動・追従制御性				-	-	-			
2.1.3 外皮性能			外断熱(t=50)U=0.6 Low-eガラスU=2.6 屋根断熱(t=50)U=0.56	5.0	0.40	3.0	-		
2.1.4 ゾーン別制御性				3.0	-	3.0	-		
2.1.5 温度・湿度制御				-	-	-			
2.1.6 個別制御				-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮				-	-	-			
2.1.8 監視システム				-	-	-			
2.2 湿度制御			3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境			4.0	0.25	-	-	4.0		
3.1 昼光利用			3.8	0.30	-	-			
3.1.1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-		
3.1.2 方位別開口				3.0	-	3.0	-		
3.1.3 昼光利用設備			ライトシェルフ(庇)、光と風の庭(共用部への昼光利用)	5.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策			4.0	0.30	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア				-	-	-			
3.2.2 昼光制御			カーテンと庇の組み合わせによりグレアを制御	4.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度			3.0	0.15	-	-			
3.3.1 照度				3.0	1.00	3.0	-		
3.3.2 照度均斉度				-	-	-			
3.4 照明制御			教室ごとに制御可能、かつ職員室にて全教室を調整可能	5.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境			4.4	0.25	-	-	4.4		
4.1 発生源対策			5.0	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質			F☆☆☆☆、クロルピロホスを使用しない。	5.0	1.00	3.0	-		
4.1.2 アスベスト対策				-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等				-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策				-	-	-			
4.2 換気			3.3	0.30	-	-			
4.2.1 換気量			基準法(居室面積の1/20以上の開口面積)の1.2倍(居室面積の	4.0	0.33	3.0	-		
4.2.2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
4.2.3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.2.4 給気計画				-	-	-			
4.3 運用管理			4.5	0.20	-	-			
4.3.1 CO ₂ の監視			ビル管理法のCO2マニュアル整備保管	4.0	0.50	-	-		
4.3.2 喫煙の制御			学校全館禁煙	5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	4.0		
1 機能性			4.4	0.40	-	-	4.4		
1.1 機能性・使いやすさ			5.0	0.40	-	-			
1.1.1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-		
1.1.2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-		
1.1.3 バリアフリー計画			バリアフリー新法+ユニバーサルデザイン	5.0	1.00	3.0	-		
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	-	-			
1.2.1 広さ感・景観				1.0	0.50	3.0	-		
1.2.2 リフレッシュスペース				3.0	-	3.0	-		
1.2.3 内装計画			内装の木質化、エコスクール、照明と内装の一体計画、インテリア	5.0	0.50	3.0	-		
1.3 維持管理			5.0	0.30	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計			防汚性の高い内装仕上げ、外装:防錆対策、極力段差無し	5.0	0.50	-	-		
1.3.2 維持管理用機能の確保			トイレ毎にSK、十分な管理倉庫、天井隠蔽機器点検口600角等	5.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性			3.8	0.31	-	-	3.8		
2.1 耐震・免震			3.8	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性			建築基準法に定められた25%増の耐震性	4.0	0.80	-	-		
2.1.2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			4.0	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数			コンクリートの調合強度がF _c =30→水セメント比が50%以下	5.0	0.23	-	-		
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-		
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			床:ビニル床シート、タイルカーペット、壁:ビニルクロス、天井:ボード類	5.0	0.09	-	-		
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔			屋外露出ダクト、厨房排気ダクトにステンレスダクト	5.0	0.08	-	-		
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔			耐用年数20年以上	5.0	0.15	-	-		
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-		

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.8	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具、汚水ビッド、雨水利用	5.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA以上(大きな補修をすることなく重要な機能が確保で	4.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、地下なし	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.8	0.29	-	-
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高3.7～3.9m未満	4.0	0.60	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.15	4.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり		3500N/㎡以上	4.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕、更新	4.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	構造部材だけでなく仕上材も痛めることなく修繕、更新	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	構造部材だけでなく仕上材も痛めることなく修繕、更新	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出		敷地外周を緑化、殿田公園、明田児童公園と一体となった緑の学	4.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮		建物四周に勾配屋根、体育館棟に縦ルーバー、教室棟の分節化等	5.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	内装に京都産材を使用。中庭、南側に開いた段上校舎とバルコ	5.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	中高木の緑地、庇、敷地内の舗装面積小	4.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制		PAL値=202	5.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			4.5	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用	アトリウムと連携した換気システム、体育館のクール&ヒートビッド	5.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光パネル(10kw)	4.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR=41.9	5.0	0.30	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-
1.1	節水	節水こまに加えて、超節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.6	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用	4.0	0.67	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			4.1	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント(基礎梁)	4.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	間伐材、集成材、舗装材、再生デッキ材	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材	内装に京都産材	4.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	解体時におけるリサイクル促進(躯体と仕上、内装材と設備が分	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用	建具塗装、木部塗装、壁塗装、フローリングボード用接着剤等4つ以上	5.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.68	-	-
1	消火剤	ハロン消火剤無使用	4.0	0.33	-	-
2	断熱材	ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材料	5.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率が一般的な建物より少し低い	5.0	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			4.0	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止	NOx、SOx、ばいじん排出基準が「ドライン」より大幅減	4.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善	地表面被覆材料に配慮(グラウンド:土)スウインドウ設備(排熱)	4.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制	自転車置場、管理用車両ルートの確保	5.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミストックスベース、ビン、缶類の減量化(自販機非設置)ウォータークーラー	5.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.5	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.3	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	日照阻害の抑制	日影規制に対して1ランク上(3h、2h)の基準を満たしている。	4.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			5.0	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告照明なし	5.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	反射光(グレア)は発生しない	5.0	0.30	-	-